

障害者虐待横ばい 2226人

16年度 施設職員は最多18%増

厚生労働省は27日、2016年度に障害者が家族や福祉施設職員から受けた虐待が1939件（山口県内8件）あり、計2226人だったと発表した。15年度の2184人からほぼ横ばいだったが、施設職員による虐待は18%増の401件、672人になり、調査を始めた12年度以降で最多となった。

調査は12年に施行された障害者虐待防止法に基づき、今回で5回目。厚生労働省は増加の理由について「法律で虐待の通報が義務付けられたことが定着したためではないか」としている。福祉施設では、暴行や拘束といった「身体的虐待」が57%と最多だった。次いで暴言などの「心理的虐待」が42%、「性的虐待」が12%だった。家族や親族によるものは15年度に比べ微減の1538件（山口県内11件）、1554人。死亡に至った人も5人いた。障害年金の使用込みといった「経済的虐待」の割合が施設よりも高く、24%あった。被害者の中では知的障害者が最も多く、施設職員のケースでは69%、家族や親族では54%を占めた。厚生労働省は今年7月、16年度の職場での虐待についても972人だったと公表しており、今回の調査と合わせて、計3198人となる。

警察OBらが

証拠隠滅疑い

栃木の障害者施設暴行宇都宮市の知的障害者支援施設「ピ・ブライト」で4月、入所者の男性(28)に暴行したとして運営法人「瑞宝会」の職員ら2人が傷害容疑で逮捕された事件で、栃木県警は4日、事件に関する内部調査資料を捨てたとして証拠隠滅の疑いで、同会職員の県警OB手塚通容疑者(69)＝宇都宮市＝ら3人を逮捕した。

他の逮捕者は県警OBの斎藤博之容疑者(58)＝栃木県大田原市＝と、暴行事件当時に施設長だった斎藤健輔容疑者(56)＝宇都宮市。OB2人はいずれも警部補で退職した後、瑞宝会に再就職し、内部調査の担当部署に所属していた。逮捕容疑は、4月15日にあった暴行事件の証拠と認められる文書を、同18日ごろに廃棄した疑い。県警は3人の認否を明らかにしていない。捜査関係者によると、文書には暴行の目撃証言が記載されていた。シュレッダーで裁断されたとみられる。瑞宝会によると、県警OB2人が所属していた部署は、施設で事故やトラブルがあった際などに対処している。暴行事件後には手塚容疑者が職員に聞き取りするなどしていた。